

# 日の出【高学年３ - ( ３ )】

## - 表現活動を取り入れた取組み -

( １ ) 主題名 美しいもの [ ３ - ( ３ ) ]

( ２ ) ねらい 美しいものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつ。

( ３ ) 資料名 「日の出」

( ４ ) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 「美しい」から連想する言葉集めをする。	「美しい」から想像するものを集めてみましょう。 ・美しい顔 ・美しい景色 ・美しい心 など	ゲームのように楽しみながら「美しいもの」に興味をもてるように雰囲気づくりをする。
展  開	2 資料を読んで、健一が感じた美しさを感じ取る。  3 自分の生活を振り返る。	健一のお父さんが言っていた「すごいもの」とは、どんなものだったのでしょうか。 ・朝日の美しさ ・朝日がのぼる姿  いつも見ていた太陽なのに、なぜ心がジーンとしたのでしょうか。 ・いっしょうけんめい登って見た朝日だから ・生まれたばかりの太陽を見たから ・ほんとうにきれいだと思ったから  今までに感じた美しいものを表現してみましょう。	朝日がのぼるシーンを実際にスクリーンに映し出す。  体験も付け加えて発言するようにうながす。  美しいと感じたことを思い出し、イメージを文や絵などに表現できるよう言葉をかける。 (十分に時間をかける。)
終 末	4 教師の話を聞く。	人の気持ちをすがすがしくし、すばらしいなと思わせてくれる美しいものを見ましょう。	スライド形式で美しい景色などを見て、余韻を持って終わる。

## 四の五

健一、起きる。出かけるぞ。」

お父さんにゆり起されて、目が覚めた。テレビを見ながら、いじの間にかねむってしまったらしいだんのぼくだったら起きられないのだけれど、今日は特別だ。家族でさそく出かけた。

外はまだ暗い。朝が苦手でおそくまで起きているのが得意なぼくだ。ゲームをしていると何時間でも起きていられる。そんなぼくだけれど、今日は家族みんなで早朝登山をすることになった。

「山にはすごいものがあるぞ。ゲームより、もっと夢中になるかも知れないよ。」

とお父さんがさそってくれた。ぼくはどんなものがあるのか知りたくて、ねむたかったが、すごいものみたさにがんばることにした。

山に登り始めたころは、みんなで行くことがつれしくて、妹といじにはずんでさわぎながら登った。ゆるやかな登り道を、かいちゅう電灯をつけて登る。だんだんと道が急になってくる。足もとの石ころがころころと動き、しかりふみしめないでけそつにならぬ。

健一、だじょうぶか?。」

とお父さんが声をかけてくれたが、こたえる元気もなくなってきた。暗い中、いじまでこの登り道が続くのだから。体が重く、あせがひたいから首から流れていくのがわかる。

いじ、目の前の景色が変わった。

「おや、う上だ。健一。もつひどがなほうだ。」

とつとつとちゅう上に着いた。大きな岩にこたえをおろして、流れるあせをぶく。風がこちよひひんやりした空気のなか、まだあたりは暗い。

「お父さん、山にあるすごいものって何? 暗くてなんにも見えないよ。」

健一、もつすべ、始まるぞ。しかり見るんだよ。」

とお父さんは、こたえにならないことを言う。

わからないまま、お父さんが見ている東の空をながめていた。すると、海の間につが、うつすら明るくなった。だんだん明かりがはきりしてきて、空が、うすいオレンジ色にそまった。

「あ、太陽がのぼるんだ。」

ぼくは、少しずつ変化していく空の様子を見ながら、なぜか心がジーンとしてきた。

「お父さんの言ったすごいものって、これだね。ぼく生まれて初めて見たよ。」

光の直線が、何本も何本も広がり、あたりを明るくしていく。いじの間にか、小鳥の音が聞こえてきた。毎日毎日、見ていた太陽なのに、今日は、特別美しく見えた。

ぼくはいじでも、朝日ののぼるすがたを見つめて続けた。

# 活用に生かすための実践報告

「日の出」

## 1 主題の設定

人間は、美しいもの・清らかなもの・崇高なものに対峙したとき、心を打たれ感動する。そして、普段目の当たりになっているものでも、見る視点が変わり、努力の結果として見た場合などは、普段と違ったすばらしいものとして映ることがある。

主人公健一は、早朝登山に挑む。苦勞の未登った山から見た太陽は、日常なにげなく見ている太陽とは様相を異にし、心を打つ姿であった。

それを追体験することで、日常にあるすばらしいものに感動したり、美しさや崇高な様に気付いたりすることができる考える。

## 2 指導過程の工夫

導入では、普段あまり使わない「美しい」という言葉集めをすることで、自分たちの身の回りにある美しいものを意識して学習に入れるようにした。

また、自分を振り返るときには、自分の感じた美しさを文や絵などで表現する活動に取り組み、自分の内面を具現化できるようにした。

## 3 発問の工夫

日の出の様子が映像として心の中にうかぶように、ゆっくり資料を読む。

そして、「いつもみていた太陽なのになぜ、心がジーンとしたのでしょうか。」と問い、発言をあせって求めないようにしていく。

## 4 児童の反応

(自分の感じた美しいもの)

・雨上がり、くものすに水てきがついていて

日の光にきらきら光っているところがきれいでした。

- ・夕日を見たときには、赤くそまっていく空はまるで赤いじゅうたんのようでした。ぼくはこの夕日がいつまでもいつまでもずっと見られたらいいなと思いました。
- ・旅行に行ったとき、朝すごく早くてうとうとしていたらお母さんが「うわぁ、すごい。」と言ったので、ふと外を見ると、山に囲まれた海からオレンジ色の太陽が頭を出していた。朝早く起きてよかったと思いました。
- ・正月にいなかに帰った時に、空にすごい数の星が出ていて、とても感動しました。



(きれいな満月)

## 5 実践者からの一言

生活を振り返り、美しく感じたものは、日の出以外にも、おだやかな海の様子や桜の花、ほたるの光など多様であった。また自然の美しさのみならず人の行為や姿にもイメージを広げることができていた。

映像や写真集のように、視覚的に訴えるものが補助教材としてあると、児童も美しいものを感覚的に感じ取れる。

(古市小学校 藤本嘉江)